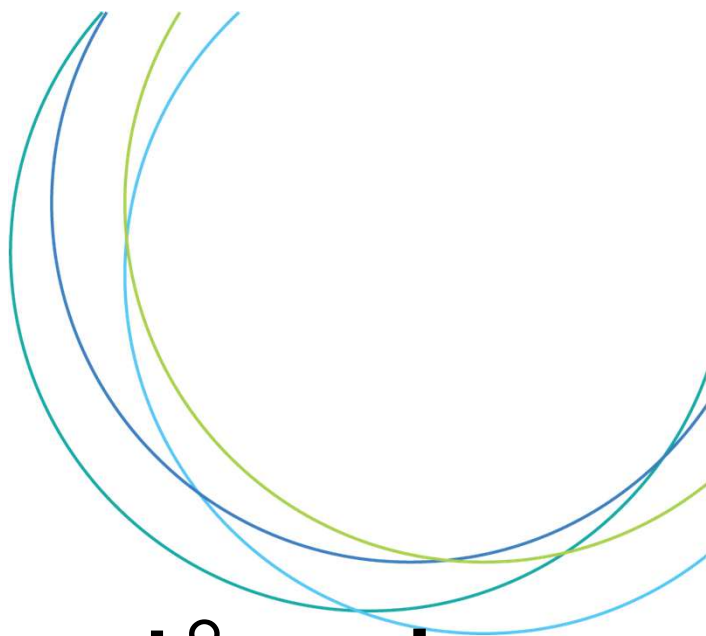




エコアクション21[®]
認証番号 0013799



環境経営レポート

対象期間：2025年4月1日～2026年3月31日

2026年8月17日発行

株式会社 KANSOテクノス



目 次

1. 経営理念	1 頁
2. 環境経営方針	1 頁
3. 組織概要	2 頁
4. 事業概要	3 頁
5. 実施体制	4 頁
6. 役割・責任・権限	4 頁
7. 2025年度の総括	5 頁
8. 各目標の達成状況と評価	6 頁
9. 環境関連法規等の順守状況	15 頁
10. 代表者による全体評価と結果の見直し・指示	15 頁

1. 経営理念

○使命

豊かな地域社会の実現とかけがえのない地球環境の保全に貢献しつづけます。

○行動指針

1. すべての企業活動で、安全を最優先とし、お客さまの満足と信頼の確保を目指します。
2. 独自の技術開発を推進し、総合的な技術力を背景とした付加価値の高い商品・サービスを提供します。
3. 絶えず自己変革に努め、豊かな人間性を育みながら、自らの夢に挑戦します。
4. 法令の遵守はもとより、高い倫理観を持ち、公正・誠実に行動します。

2. 環境経営方針

私たち株式会社KANSOテクノスは、『豊かな地域社会の実現とかけがえのない地球環境の保全に貢献しつづけます』の経営理念のもと、より良い環境の実現と持続可能な社会に資する事業活動を推進します。

1. 事業活動全般にわたり環境関連法令等を遵守します。
2. 以下の環境に配慮した事業活動を行います。
 - ①省エネルギー活動による二酸化炭素排出量の削減および節水による水使用量の低減
 - ②廃棄物排出量の低減および再資源化率の向上
 - ③化学物質の適正管理
3. 小水力発電の開発による二酸化炭素の排出削減に貢献します。
4. お客さまの都市開発および電源開発に係る環境アセスメント、ならびに原子力・水力発電所の維持管理をはじめ土木・建築の工事・保守点検を通じ、環境保全に貢献します。
5. 環境課題の解決に資する技術開発を推進します。
6. 環境保全に関する国内外動向、政策、技術開発等の最新情報を入手し、社員に周知・教育を行い、知識・意識の向上を図ります。
7. 地域の環境保全や普及活動へ積極的に参加します。

2022年5月24日制定

2024年8月21日改定

代表取締役社長 岡田 達志

3. 事業概要

豊かな地域社会の実現とかけがえのない地球環境保全に向けて、環境、土木・水力、建築のあらゆるフィールドで社会基盤を支え続けています。主な事業領域は以下の3つの分野で構成されています。

環境分野

半世紀にわたり培ってきた高度な技術力と最先端の分析技術を駆使し、豊かな自然環境の保全と持続可能な社会の実現に貢献する「環境コンサルティング・調査・分析」のプロフェッショナル集団です。法・条例に基づく環境アセスメントから、最先端の環境DNA分析、脱炭素社会の実現に向けたコンサルティングまで、山・川・海・都市のあらゆるフィールドで、環境に配慮した事業を総合的にサポートします。



海洋調査



環境測定分析



魚類調査



大気観測調査

土木技術・水力分野

社会インフラの安全性を支える「土木技術」と、クリーンな未来を創る「小水力発電事業」を両輪として、強靱な社会基盤の構築と脱炭素化の推進に貢献しています。インフラの点検・診断から維持管理、地盤調査、防災技術の開発、そして再生可能エネルギーの安定供給まで、一貫したエンジニアリング力を提供します。



FDEMによるトンネル切羽前方探査



駅ビル緑水歩廊



小水力発電所の建設



洪水吐ゲート点検

建築分野

建物の新築工事から、省エネ性能の向上や長寿命化改修など、建築物のライフサイクル全体を見据えて、ゼロカーボン化を実現するためのファシリティマネジメントを総合的にサポートします。



煙突の外部点検



煙突の内部点検

4. 組織概要

事業者名

株式会社KANSOテクノス

代表者名

代表取締役社長 岡田 達志

法人設立

1974年1月17日

資本金

1億円

事業規模

単位：百万円

	2023年度	2024年度	2025年度
売上高	20,921	23,192	24,902

事業活動

- ・ 環境に関する調査・研究
- ・ 環境測定・環境分析
- ・ 土木・建築に係る計画・施工、設備メンテナンス
- ・ 公共施設ファシリティマネジメント関連業務
- ・ 小水力発電の建設・運用管理
- ・ 魚介類の種苗生産
- ・ アグリ事業

環境管理責任者

環境管理総括責任者

品質監査室

品質監査室長

松田 洋典

環境管理事務局

品質監査室

品質管理グループチーフマネジャー

岡本 博仁

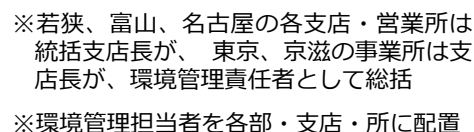
対象事業所

2026年3月31日 現在

事業所		従業員数	延床面積 (㎡)	所在地
本店	品質監査室	284	3,998	大阪府大阪市中央区安土町1-3-5
	経営管理本部			
	環境事業部			
	土木事業部			
	建築事業部			
計測分析所		27	5,601	大阪府交野市東倉治3-1-1
若狭統括支店		84	663	福井県大飯郡おおい町成和字2-1-123
	美浜分室		199	福井県三方郡美浜町郷市14-1-7 (KGビル)
	美浜営業所 ¹⁾		114	福井県三方郡美浜町丹生66号川坂山 関西電力(株)美浜発電所内
	高浜営業所 ¹⁾		142	福井県大飯郡高浜町田ノ浦 関西電力(株)高浜発電所内
	大飯営業所 ¹⁾		142	福井県大飯郡おおい町大島 関西電力(株)大飯発電所内
富山統括支店		45	291	富山県富山市弥生町1-5-1
	宇奈月支店		1,351	富山県黒部市宇奈月町下立301
	庄川支店		285	富山県砺波市庄川町金屋3703-1
	神通川支店		826	富山県富山市笹津西平割1-28
名古屋統括支店		35	145	愛知県名古屋市中区泉2-27-14
	上松支店		2,214	長野県木曽郡上松町大字小川字島3118
	今渡支店		1,542	岐阜県可児市川合2793-26
東京支店		28	305	東京都千代田区神田東松山下町14 東信神田ビル4階
	福島事業所		180	福島県福島市岡島獅子田1-14
京滋支店		17	301	京都府宇治市宇治里尻78-5
	滋賀事業所		617	滋賀県大津市唐橋町19-22
奈良支店		5	151	奈良県橿原市新賀町201-2
和歌山支店		5	156	和歌山県田辺市高雄3-22-19
	和歌山オフィス		46	和歌山県和歌山市十番丁12(十番丁ビル2F)
姫路支店		13	338	兵庫県姫路市飾磨区下野田2-525-4
	朝来オフィス		65	兵庫県朝来市立野字大谷689-5
河南農場 ²⁾		2	9,000	大阪府南河内郡河南町寛弘寺1027

- 1) 若狭統括支店の営業所（3カ所）については、各原子力発電所の工事会社共同施設内にあり、当該発電所の管理基準に則った運営が行われていること、また構内規定により外部からの立入に制限があることから従業員のみを対象としました。
- 2) 環境事業部都市環境Gが管理している河南農場については、2025年から対象範囲に含めました。

5. 实施体制



6. 役割・責任・権限

環境経営推進責任者	・環境経営システムが有効であることの説明責任を負う ・環境管理総括責任者を任命する
環境監査チーム	・環境監査を実施する ・環境経営システムに関する、問題の明確化と記録、解決策の実施勧告又は、提供、解決策の検証
環境管理総括責任者	・環境経営システムの構築及び見直し並びに環境経営活動に関する基本的事項の企画、立案を行う ・環境管理総括責任者の下に環境管理事務局を設置する ・環境管理事務局の業務を総括する。
環境管理事務局	・各部所の環境管理活動状況の把握と環境管理活動に関する連絡・調整・指導を行う ・環境経営推進会議を設置・運営する

環境経営推進会議	・環境経営推進責任者、環境管理総括責任者、環境管理責任者により構成する ・本会議では、環境経営計画、活動結果等の環境経営に係る事項について審議を行う
環境管理責任者	・各部所の長が務め管理する ・各部所の「環境経営計画書」の策定、活動状況の把握及び所属従業員へ環境に関する教育・指導を実施する ・「環境経営計画書」の管理及び環境経営システムの運営状況を把握する
環境管理担当者	・環境管理責任者の活動を補佐する
全従業員	・環境経営方針を理解し、環境への取り組みの重要性を自覚し、各自の役割を実施する

7. 2025年度の総括

2025年度は、当社が掲げる環境経営方針に基づき、各部門で具体的な数値目標の達成と環境配慮活動の定着に努めました。この結果、電気、ガソリン使用量が減少したことから、全社的なCO2排出量は前年度比で低減しました。個別の活動においては、軽油使用量、リサイクルペーパー使用量、一般廃棄物排出量は目標達成できませんでしたが、水使用量の抑制、産業廃棄物の再資源化率、化学物質の適正管理などの項目で目標を達成しています。

また、弊社で建設、運用を行っている再生可能エネルギーである小水力発電では、4,358,392 kWhを発電、供給をしました。

2025年度目標と実績（全社）

項 目	2024年度実績 【基準年度】	改善 目標	目標値	実績	達成状況		次年度改善目標	達成手段等
			2024年度 4-3月	2025年度 4-3月	対前年値	評価	2025年度実績 より-1%削減目標	
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	1,300,003	-1%	1,287,003	1,256,965	-3.3%	○	1,244,396	電気使用量による二酸化炭素排出量係数変更による※1 2025年度より河南農場にて使用する電気も含む
電気使用量 (kWh)	1,973,316	-1%	1,953,583	1,834,956	-7.0%	○	1,816,607	節電の励行、不使用の居室の消灯、空調の適切使用等
ガソリン (L)	134,401	-1%	133,057	124,454	-7.4%	○	123,209	公共交通機関の活用、エコドライブの徹底等
軽油 (L)	19,524	-1%	19,329	21,465	+9.9%	×	21,250	公共交通機関の活用、エコドライブの徹底等
A重油 (L)	50,000	—	2025年度より	52,000	—	—	51,480	2025年度より河南農場にて使用する燃料を記載
灯油 (L)	4,426	—	2025年度より	4,187	—	—	4,145	2025年度より河南農場にて使用する燃料を記載
車両の燃費評価	(Km/L)			(Km/L)			燃費目標値	
ガソリン車 走行距離 燃費	1,584,205		—	1,341,645			-	ハイブリッド車への切り替えに加え、燃料管理やドライブレコーダーによるエコドライブの推進
	11.79	+1%	11.91	10.78	+1.0	×	10.89	
ディーゼル車（軽油） 走行距離 燃費	222,645		—	206,795				
	11.40	+1%	11.52	9.63	+1.8	×	9.73	
水使用量 (m ³)	7,408	-1%	7,334	5,859	-20.9%	○	5,800	節水の励行等 2025年度より河南農場にて使用する水道水を含む
グリーン購入推進								
リサイクルペーパー 使用量 (kg)	16,606	-1%	16,440	17,751	+6.9%	×	17,573	電子化、Web活用によるペーパーレス化の推進等
一般廃棄物排出量	16,537	-1%	16,372	19,760	19.5%	×	19,563	分別・リサイクル化に加え、電子りん議、伝票レス決裁、全社ポータルへの電子掲示等社内書類のデジタル化を進展
産業廃棄物排出量 (t) ※2	3,958	—	—	4,883	23.4%	—	—	受注業務内容による搬出量の変動
再利用率 (t)	2,095	—	—	3,733	78.2%	—	—	
再資源化率 (%)	52.9%	50%以上	50%以上	76.4%	23.5%	○	—	再生利用率の向上に努める
化学物質使用量 (kg)	383.13	-1%	379.30	139.55	-63.6%	○	138.15	適正量使用の推進等
小水力発電による再生可能エネルギー発電・供給								
小水力発電量 (kWh)	4,285,938	—	—	4,358,392	—	—	—	奥伊吹発電所、奥伊吹第二発電所、上松駒ヶ岳発電所、森安発電所、大谷発電所において発電
発電による二酸化炭素削減 効果 (kg-CO ₂) ※3	1,718,661	—	—	1,808,733	—	—	—	再生可能エネルギーとして電力会社へ供給

※1) 電気における二酸化炭素排出量係数は、2024年 0.401、2025年 0.415 (単位: kg-CO₂) とした

化石燃料における二酸化炭素排出量係数は、A重油 2.71、灯油 2.49、ガソリン 2.32、軽油 2.58 (単位: kg-CO₂) とした

※2) 産業廃棄物排出量については受注する工事の内容により排出量が大きく変動するため、再利用率50%以上を目標値とした

※3) 小水力発電による二酸化炭素削減効果は、発電量に対してKANSOテクノスで使用する

電力の原単位 (0.415kg-CO₂/kWh) を乗じた値により算出した

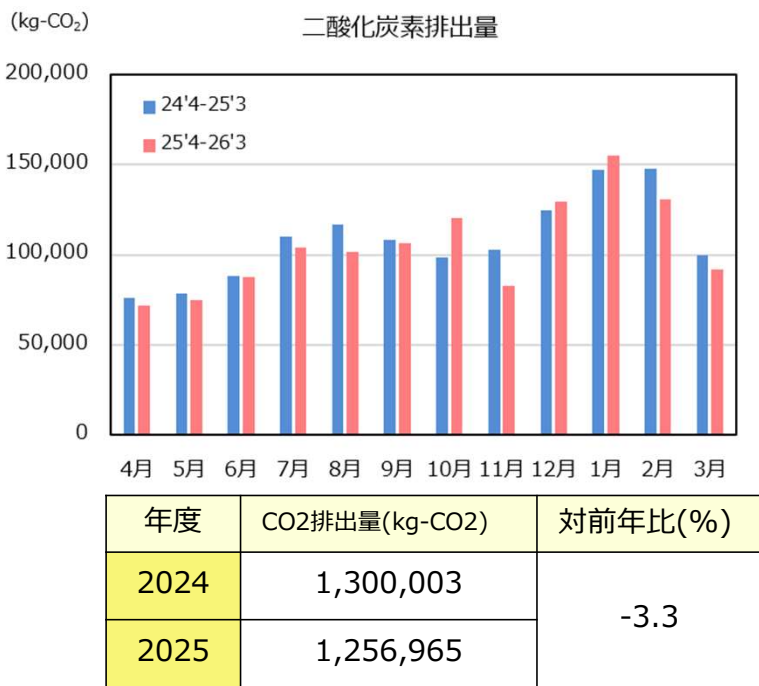
8. 環境経営計画における目標と実績及び評価

二酸化炭素排出量の1%削減

二酸化炭素排出量は、前年度に対して-3.3%減となりました。

複数の事業所において電気使用量及びガソリン使用料が削減できたことにより目標を達成できました。

引き続き、各事業所におけるこまめな消灯・不要照明の間引きエコドライブの推進等の省エネを継続し、さらなる排出量の削減を呼びかけます。



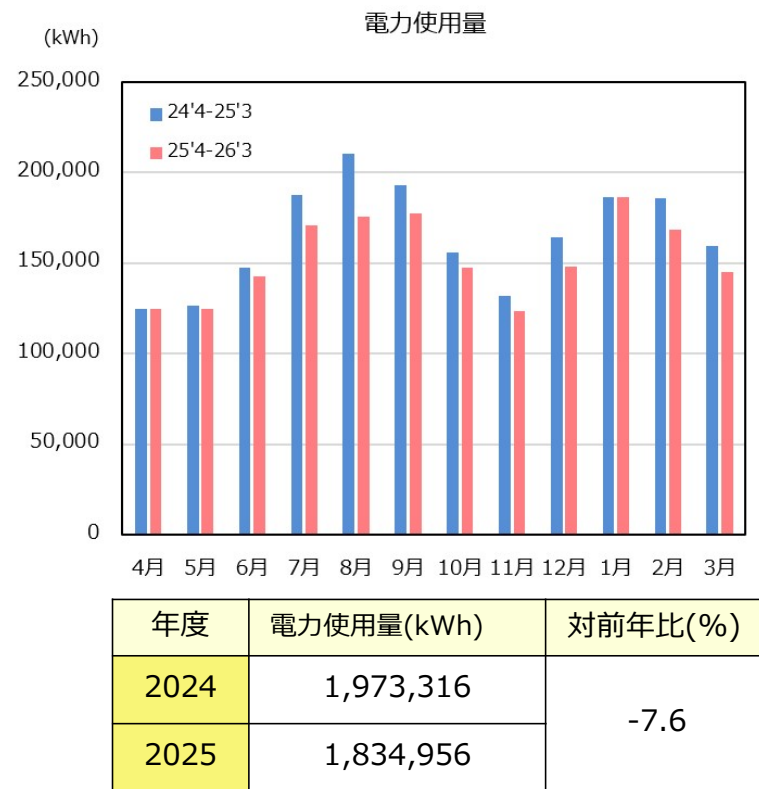
※2025年度から河南農場を適用対象としたことから、2024年度にも河南農場の排出量を加えて記載

<電力使用量の1%削減>

電力使用量は、前年度に対して、-7.6%減となりました。

空調の設定温度の見直しやこまめな消灯による節電を実施し目標を達成できました。

引き続き、執務室等での「節電シール」やポスター掲示による、昼休みの消灯や離席時のパソコン省エネモード設定などの節電活動の継続を行っていきます。



※2025年度から河南農場を適用対象としたことから、2024年度にも河南農場の電気使用量を加えて記載

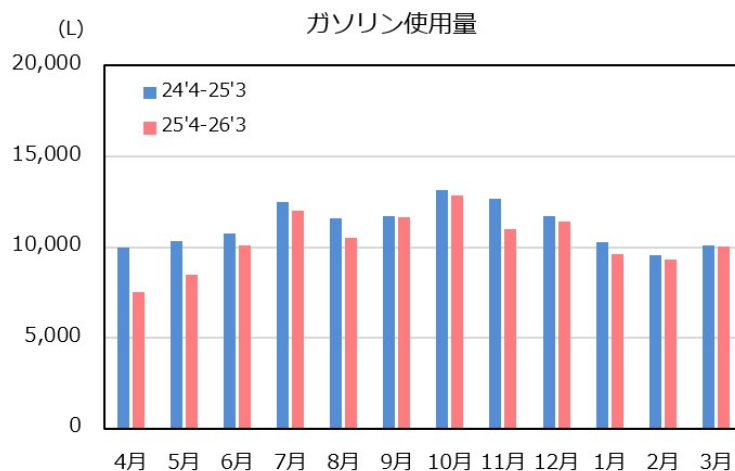
＜ガソリン使用量の削減＞

ガソリンの使用量は、対前年度比－7.4%減となりました。

エコドライブの定着やドライブレコーダーの機能を活用して運転者への安定走行のアナウンスを行うなど、燃費改善に取り組みました。

引き続き更新時にはハイブリッド車や新基準エコカーの導入、エコドライブの推進と効率的な運行計画を心掛けていきます。

年度	ガソリン使用料(L)	走行距離(km)	燃費 (km/L)
2024	134,401	1,548,205	11.79
2025	124,454	1,341,645	10.78



年度	ガソリン使用量(L)	対前年比(%)
2024	134,401	-7.4
2025	124,454	

社有車
ガソリン車 166台中
ハイブリット車 25台

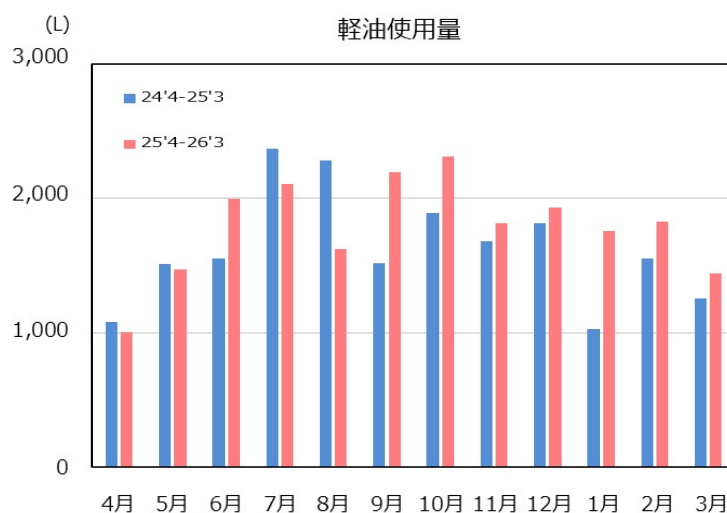
＜軽油使用量の削減＞

軽油の使用量は、対前年度比＋9.9%増となりました。

これは、移動距離の減少と利用頻度の増加による燃費の悪化が要因と思われます。

引き続き更新時には新基準エコカーの導入、エコドライブの推進と効率的な運行計画を心掛けていきます。

年度	軽油使用料(L)	走行距離(km)	燃費 (km/L)
2024	19,524	222,645	11.40
2025	21,465	206,795	9.63



年度	軽油使用量(L)	対前年比(%)
2024	19,524	+9.9
2025	21,465	

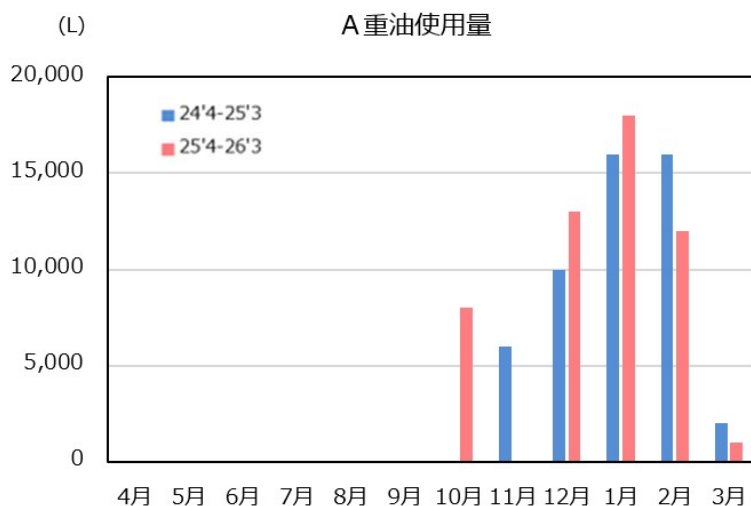
社有車
ディーゼル車 20台（全て環境基準車両）

＜A重油使用量＞

2025年度より河南農場におけるA重油の使用量を本報告に含めることとしました。

河南農場における冬季の厳しい低温時には、温室（イチゴ栽培施設）の室温維持のためボイラーを併用運転することでA重油を使用します。

A重油の使用においてはボイラー内のメンテナンスにより燃焼効率を上げ使用量の減少に努めます。



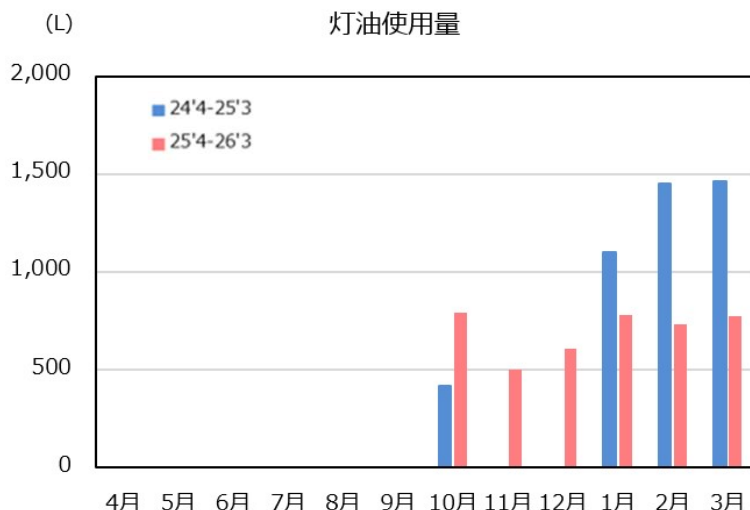
年度	A重油使用量(L)	対前年比(%)
2024	50,000	+ 4.0
2025	52,000	

※2025年度から適用対象としたことから、2024年度データは参考値として記載

＜灯油使用量＞

2025年度より河南農場における灯油の使用量を本報告に含めることとしました。

いちご栽培における光合成促進として、CO2発生装置に使用しており、CO2濃度の自動制御により、過剰に使用しないよう取り組んでいます。



年度	灯油使用量(L)	対前年比(%)
2024	4,426	- 5.4
2025	4,187	

※2025年度から適用対象としたことから、2024年度データは参考値として記載

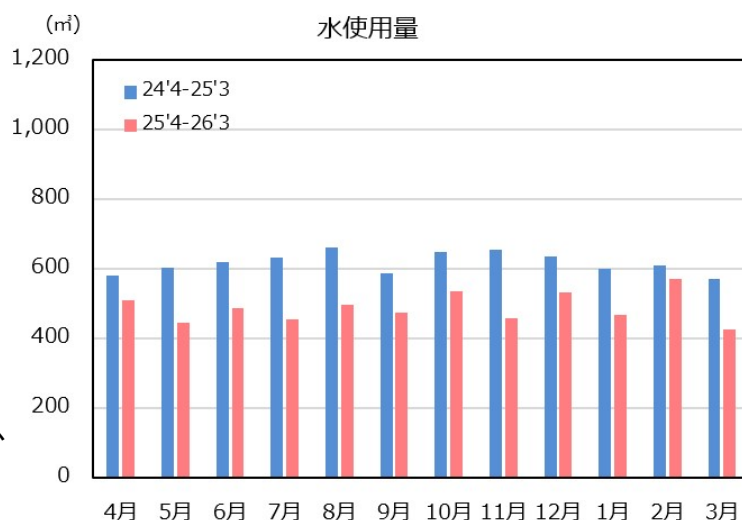
河南農場におけるA重油と灯油の使用においては、ICT技術を用いた養分・水分・CO2供給の複合的な制御・管理とあわせ、ヒートポンプとボイラーの効率的なハイブリッド運転（通常時はヒートポンプを優先）による温室内の適切な温度管理等を行い、燃料消費を抑制する取り組みを行います。

水使用量の1%削減

水使用量は、対前年度比－20.9 %の削減となりました。

各事業所における「節水シール」の貼り付けやポスター掲示による従業員の意識啓発が定着したこと、および測定機器や器具の洗浄回数・洗浄方法の見直し等により、大幅な削減を達成しました。

今後も器具や食器等の洗浄時は節水に努め、ステッカー等で節水の周知に取り組みます。



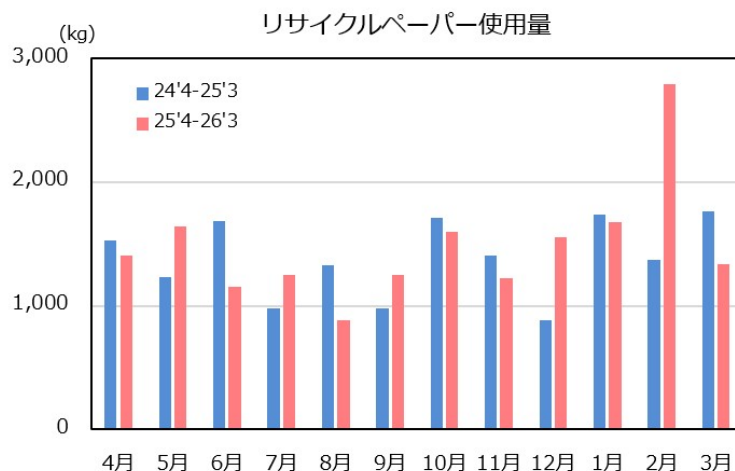
年度	水使用量(m ³)	対前年比(%)
2024	7,408	-20.9
2025	5,859	

リサイクルペーパーの使用量1%削減

リサイクルペーパーの使用量は、対前年度比＋6.9%の増加となりました。

会議のペーパーレス化（PC持込の推奨）や電子決裁（ワークフロー）の導入を進めたものの、業務量の増加に伴う受注先への提出報告書や申請書類などの印刷需要が増加したことが未達の要因です。

今後は、会議資料等のデジタル化の推奨、Web会議システムの活用によるペーパーレス化を進めます。



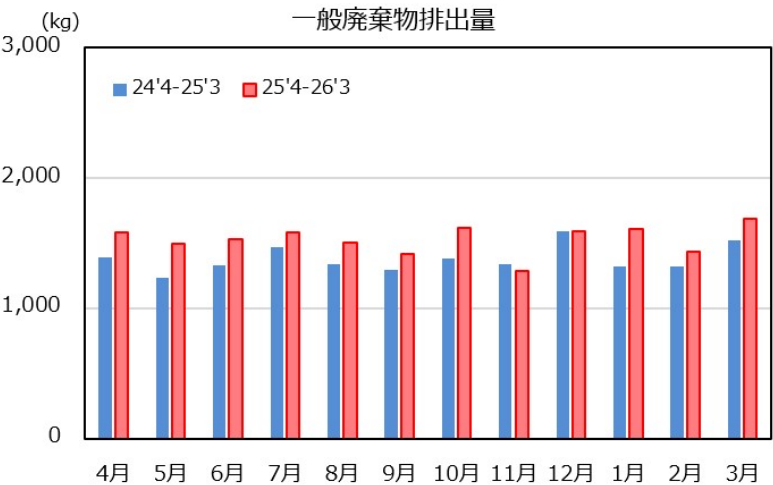
年度	リサイクルペーパー使用量(kg)	対前年比(%)
2024	16,606	+6.9
2025	17,751	

一般廃棄物排出量の適正管理

一般廃棄物排出量については、前年度に対して+10.8%増となりました。

事務系ごみの分別回収の徹底や、社内書類のデジタル化（電子決裁や伝票レス決裁等）を行いました。業務量の増加に伴う排出がありました。

引き続き分別の徹底による3Rの促進による廃棄物の排出量の削減に取り組めます。



年度	一般廃棄物排出量(kg)	対前年比(%)
2024	16,537	+ 10.8
2025	18,329	

※2024年度データは集計誤りのため昨年度の環境経営レポート（報告値：24,736）から下方修正いたしました

一般廃棄物については、3R促進啓発ステッカーを作成・配布し、削減に取り組んでいます。

引き続き周知・啓発に努め、ゴミの分別回収を推進し、廃棄物の排出量の削減に取り組めます。



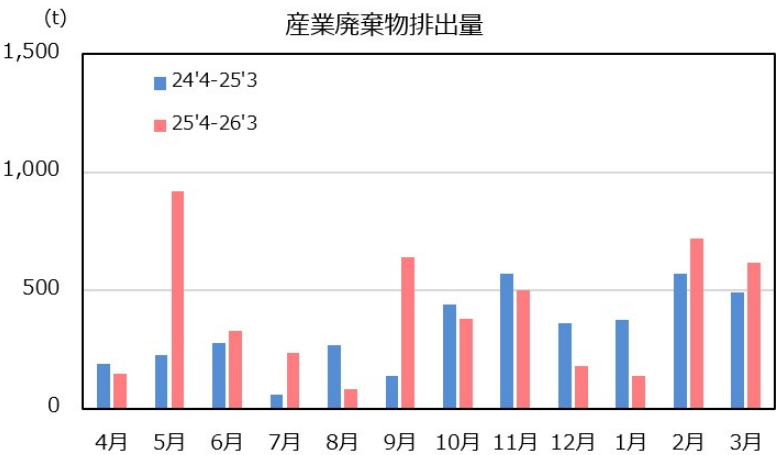
KANSOテクノス独自の啓発ステッカー

産業廃棄物排出量の適正管理

産業廃棄物の再資源化率については、74.6%となり目標を達成しました。

これは受注した工事内容により全体の排出量の増加や一部事業所ではレイアウト変更に伴う一時的な排出がありました。再資源化率の高いコンクリート片などの割合が前年度に比べて増加したためです。

引き続き、産業廃棄物については、分別の徹底により、再資源化に取り組めます。



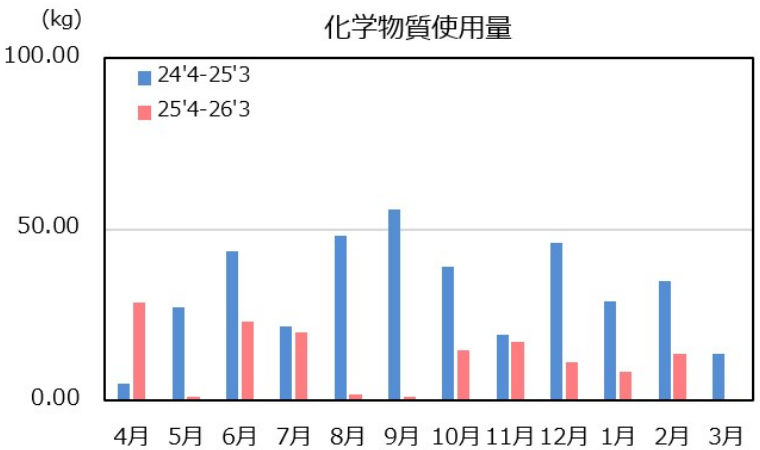
年度	産業廃棄物排出量 (t)	再利用率 (t)	再資源化率 (%)	対前年比 (%)
2024	3,958	2,095	52.9	+ 23.5
2025	4,883	3,733	74.6	

化学物質使用量の適正管理

化学物質使用量については、対前年度比 -63.6%減となりました。

これは、分析業務の受注内容により試薬使用量が減少したためです。

引き続き、在庫管理の適正化と安全な取扱管理を維持し、環境および作業安全の確保に努めます。



年度	化学物質使用量 (kg)	対前年比 (%)
2024	383.13	-63.6
2025	139.55	

河南農場におけるイチゴの栽培

大阪府河南町において9,000㎡の栽培施設を建設し、イチゴ（紅ほっぺ）を栽培しています。

施設内の温度管理は、ヒートポンプ(電力)とボイラー(燃料)を活用したハイブリッド方式を行っています。通常時は低コストのヒートポンプを優先して活用します。低温時にはヒートポンプのみでは室温維持が困難となる為、ボイラーと併用運転を実施しています。ハイブリットにすることで、CO2排出量も削減され、環境配慮してSDGsを意識したエコないちご栽培を実施しています。

このような省エネに取り組むとともに、ICT技術を用いて、温度、CO2供給量、肥料濃度などを複合的に制御・管理しています。



河南農場では、JGAP認証農場を取得しており、持続可能な農業のための取り組みに加えて、品質の向上や作業者の安全の確保など、さまざまな取り組みを行っています。

小水力発電による再生可能エネルギーの発電・供給

これまでに、5カ所の小水力発電所を建築・運営しており、地域の水資源を活用した発電に取り組んでいます。

2025年度の総発電量は、4,358,392 k Whでした。この発電量は、当社が供給を受けている電力会社のCO₂原単位で換算すると、1,808,733kg-CO₂相当の二酸化炭素の排出を削減したのと同等の効果に相当します。

現在は2カ所の建設を進めており、さらなる再生可能エネルギーの拡大と二酸化炭素の排出削減を図っています。

発電した電力はFIT（固定価格買取制度）を活用して電力会社へ供給しており、地域と共生しながら事業を推進している点が特徴となっています。



5ヶ所発電所 位置図

発電所名	2025年度		
	発電量 (k Wh)	CO2削減効果(kg-CO2)	運用開始
森安発電所	1,609,892	668,105	2020年10月
奥伊吹発電所	506,771	210,310	2022年3月
大谷発電所	208,768	86,639	2022年12月
奥伊吹第二発電所	541,375	224,670	2023年7月
上松駒ヶ岳発電所	1,491,587	619,009	2023年9月
合 計	4,358,392	1,808,733	

※ 4 発電所の発電量は、当社出資比率の50%相当分を記載しています。

※ 上松駒ヶ岳発電所は、当社出資比率100%の発電所になります。



上松駒ヶ岳発電所

業務を通じた環境保全に貢献

再生可能エネルギー開発等に伴う環境アセスメント業務や、原子力・水力発電所維持管理業務を通じて、二酸化炭素排出を伴わない電力の安定供給に貢献しました。また、ドローン技術、環境DNA技術、公共FM※調査等を活用し業務効率化、高度化による品質の向上に努めました。

次年度も引き続き環境保全活動に取り組めます。

※FM：ファシリティマネジメント



高所点検ドローン



水質調査



公共FM調査

社会貢献活動

各事業所周辺での清掃活動や地域の皆さまとの合同活動に参加し魚類の放流などを通じて、社会貢献活動に取り組めました。次年度も引き続き社会貢献活動に取り組めます。



「商店街ブロンズ像清掃」



「公園周辺清掃」



「タナビラ（アマゴ）の放流」

9. 環境関連法規等の遵守状況

2025年度末までの事業活動を通じて、環境に関連する法令、条例を遵守し、法令違反は確認されませんでした。

主な関連法令：廃棄物処理法、建設リサイクル法、騒音規制法、振動規制法、下水道法、水質汚濁防止法、浄化槽法、フロン排出抑制法、PRTR法、労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法、消防法、家電リサイクル法、自動車NOx・PM法、高圧ガス保安法

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

(1) 全体評価

2024年度の負荷データを基準として2025年度評価を行いました。期間は2025年4月1日から2026年3月31日までとしました。この結果、電気、ガソリン使用量が減少したことから、全社的なCO2排出量は前年度比で低減しました。個別の活動においては、軽油使用量、リサイクルペーパー使用量、一般廃棄物排出量は目標達成できませんでしたが、水使用量の抑制、産業廃棄物の再資源化率、化学物質の適正管理などの項目で目標を達成しています。

(2) 見直し・指示

2025年度は軽油使用量、リサイクルペーパー使用量、一般廃棄物排出量が目標未達となりました。

2025年度未達成項目については、事業活動の変動要因（受注量や工事規模等の業務内容）に対して、実効性のある対応策（分別の徹底による3Rの促進とさらなるペーパーレス化等）を2026年度 環境経営計画に反映させ、PDCAサイクルを確実に回してまいります。

